

「環境から受ける影響」

「環境から受ける影響」で一番簡単な例を言えば、私たちは日本語を話しますが、小さいころから日本語が飛び交う環境にいたからで、これがもし英語を聞いて育てば英語を話すようになります。

私たちは家に入る際に靴を脱いで入りますが、欧米では靴は履いたまま過ごします。

しかし、欧米に住んでいたとしても、大人たちが靴を脱いで過ごす環境であれば、そこで育つ子どもは家に入る際は靴を脱ぐようになります。

子どもは大人を本当によく見ていて所作、言葉の選び方、考え方まで無意識のうちに影響を受けています。傍ににいるということはそういうことです。

このように、大人は子どもにとっての大事な環境（人的環境）となります。

私たち保育者も園で椅子を運ぶ時には重ねて運んでしまいたくなりますが、子どもの前では、両手を使って一脚ずつ運びます。食器も両手で運び、靴はそろえるよう心掛けています。

園内研修などでも、言葉の選び方、言葉の持つ力などについても研修したりしています。

最近十思保育園の職員間で始めたのは、職員の所作がきれいだと感じた時に、付箋に〇〇先生のこんな行動が素敵ですなどと書いて張り出したりして皆で意識をすることです。

モンテッソーリ教育では、子どもと環境を橋渡しするのが大人の役割だと考えます。

そのために、保育室内には子どもの自立（自律）を促すような環境設定が整えられています。

例えば、花瓶の花の水をかえるという時に、もし子どもが水をこぼしてしまったら自分ですぐに雑巾を持ってきて拭けるように、いつも同じ場所に子ども用の雑巾が置いてあります。子ども用の雑巾はサイズが小さく子どもの手でも絞りやすい大きさに作っており、拭いた後も自分で絞って片付けまでが自分でできるようにしています。

これができる子どもは自信を持ち、次に失敗してもまた自分で解決できるという気持ちが沸き、考えるようになります。

また、子どもの自立（自律）を促すためには、子どもが自らやってみたい！と思えるような環境が大切です。

そのために私たちは、子ども一人ひとりが今、何に興味があるのか？どんなふうに指先が動くか？など観察しながら環境を整えています。

こうして、環境を通して子どもの興味、関心は蜘蛛の巣のように果てしなく広がっていきます。

自ら動いて獲得したもの、気づいたこと、感じたことは、子どもの宝となり今後の人格形成にも大きな影響をあたえるでしょう。

これから過ごしていく社会の中では、さまざまな人がいて、さまざまな気持ちを経験して一緒に喜んだり、考えたり、乗り越えたりしながら子どもは成長していきます。

今一度、私たち大人の立ち居振る舞いを振り返り、子どもにとって「大人も環境の一部」であり、「環境から受ける影響」は大きいという意識をもってみませんか？

（岩澤）